

2024年サプライチェーンイベント:

「一次データの活用に関する算定と検証の考え方 ～信頼性のあるスコープ3算定と削減に向けて～」 開催概要

▼ 趣旨

サプライチェーン上の温室効果ガス排出量（スコープ3上流）の削減が重要性を増すなかで、SBTやISSB等でも推奨される一次データを組み込む算定の必要性が高まっています。また一方では、スコープ1や2と同様に、スコープ3の第三者検証も欠かせない要素となっています。他社の報告したデータを活用して算出するスコープ3は、そもそもどのような合理性をもって検証されるべきなのでしょうか。

本イベントでは、CDP サプライチェーンメンバー企業と、算定支援コンサルティングおよび第三者検証に携わるCDP認定パートナーをお招きして、一次データを活用したスコープ3算定方法や、第三者検証取得の考え方をご紹介します。この機会を通じてサプライヤーエンゲージメントを有意義に推進するための重要なポイントを理解し、スコープ3削減の取り組みに役立ていただけますと幸いです。

また当日会場では、認定パートナー、第三者検証パートナー各社による相談ブースを設けます。お気軽にご質問いただく場としてぜひご活用ください。

▼ 日時・会場

日時：2024年2月21日（水）14:00～17:00

会場：新丸コンファレンススクエア Room 901、東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸ビル9階

※ 会場開催のみ（定員120名）

▼ プログラム

14:00 オープニング：スコープ3対応 — 何が重要なのか

CDP Worldwide-Japan アソシエイト・ディレクター 榎堀 都

14:10 CDP サプライチェーン：スコープ3レポートの解説

CDP Worldwide-Japan シニア・アソシエイト 福田 つかさ

14:20 セッション1：スコープ3とサプライチェーンエンゲージメントの実践

株式会社 NTT データ法人コンサルティング&マーケティング事業本部 サステナビリティサー
ビス&ストラテジー推進室 室長 南田 晋作氏

LRQA リミテッド サステナビリティチーム マネージャー 主任検証人 由岐中 一順氏

14:50 セッション2：CDP サプライチェーンプログラムデータを活用したスコープ3算定・検証

株式会社ウェイストボックス 代表取締役 鈴木 修一郎氏

一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター センター長 鈴木 健司氏

15:20 休憩

15:40 **講演： SBT などにおけるスコープ3の現状と今後**

SBTi テクニカル・アドバイザー・グループメンバー/自然エネルギー財団 シニアコーディネーター 高瀬 香絵氏

16:00 **セッション3：一次データを採用した Scope3 の第三者検証のポイント**

ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社 サステナビリティサービス部門ゼネラルマネージャー エグゼクティブ・シニア・エキスパート 倉内 瑞樹 氏

16:10 **質疑応答**

16:20 クロージング（セッションの終了）

～**検証機関による企業の相談会**

17:00 終了

【登壇者略歴】

榎堀 都：一般社団法人 CDP Worldwide-Japan アソシエイトディレクター、ディスクロージャー、ジャパン

CDP で日本国内の情報開示の責任者を務める。環境分野における情報開示や先進的な取組みを促進するべく、企業や投資家、政府等様々なステークホルダーに働きかけるなど、国内での CDP の活動全般に携わっている。博士（環境学）。

倉内 瑞樹：ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社 サステナビリティサービス部門ゼネラルマネージャー、エグゼクティブ・シニア・エキスパート

2018年4月～現在

- ・ ESG 情報開示支援や脱炭素戦略策定支援等事業を統括
- ・ GHG 排出量・環境・社会データの第三者検証、J-クレジット制度における排出削減量認証事業統括
- ・ CDP 気候変動レポートを 2018 年から継続して執筆及び CDP 日本報告会でスコア概要を毎年講演
- ・ 2022 年より ISO/TC207/SC7 対応国内委員（温室効果ガス審査協会 理事）

2013年10月～2018年3月 【国内最大手 ISO 審査・JIS・製品安全試験機関】

- ・ GHG 排出量検証、CO2 削減ポテンシャル診断、地方自治体低炭素実行計画策定支援事業を統括

2008年10月～2013年9月 【外資系（英国）ISO 審査・温室効果ガス検証機関】

- ・ GHG 排出量検証部門を創設及び検証事業を統括

2001年～2007年5月 【外資系（米国）コンサルティング会社/審査機関】

鈴木 健司：一般社団法人 日本能率協会 地球温暖化対策センターセンター長 兼 検証審査部長

製鉄会社で海外の製鉄所をメインにプラントの制御に関するエンジニアとして 18 年間勤務。そのうち 2 年間は青年海外協力隊としてタンザニアで理数科教師を務める。

2008年、日本能率協会に入職。以来、国内・海外における温室効果ガスの検証業務に従事している。

鈴木 修一郎：株式会社 ウェイストボックス代表取締役

1975年埼玉県生まれ。早稲田大学卒。

事業会社を経た後、2004年環境コンサルティングを専門とする(株)リサイクルワン(現(株)レノバ)入社、主に不動産における環境デューデリジェンス業務に従事。

2006年2月に独立し、(株)ウェイストボックスを設立。環境負荷・炭素会計把握のプロフェッショナルとして、企業が必要とするあらゆる炭素会計調査手法に精通。SBT目標設定やCDP・TCFDの情報開示を含め、気候変動対策全般にわたる経験・知見に基づき、炭素会計算定手法の正確な知識の普及と財務情報への反映を目的に、2022年7月、一般社団法人 炭素会計アドバイザー協会を設立、代表理事に就任。

高瀬 香絵：SBTiテクニカル・アドバイザー・グループメンバー/自然エネルギー財団 シニアコーディネーター

2023年より現職。慶應義塾大学政策・メディア研究科(修士)修了後、日本エネルギー経済研究所にてエネルギー統計、長期エネルギー需給見通し、石油精製モデル、都道府県エネルギー需給モデル、世界エネルギーモデル等を担当。地球環境産業技術研究機構(RITE)を経て、東京大学新領域創成科学研究科にて応用一般均衡モデルを用いた研究にて博士(環境学)を取得、科学技術振興機構低炭素社会戦略センターにて、シナリオ分析や「電気代そのまま払い」社会実装等を実施。2015年に国際NGO CDP-Worldwide Japanに参画し、企業・金融機関の目標設定(SBT)、再エネ調達(RE100)、TCFD情報開示、低炭素移行計画等のエンゲージメントを実施。現在は電力系統モデル分析、エネルギー需給モデル分析の傍ら、SBTiテクニカルアドバイザーグループメンバー等企業・金融機関のネットゼロを目指す取り組みへのアドバイスも行っている。

南田 晋作：株式会社 NTT データ 法人コンサルティング&マーケティング事業本部 サステナビリティサービス&ストラテジー推進室長

1996年にNTTデータ入社。顧客管理料金システム開発のエキスパートとして、多くの大規模基幹システム開発に関わる。2016年より製造業を担当しているが、エネルギー利用効率化やカーボンニュートラルをどのように達成するか等についてお客様と数々のディスカッションをする中で、削減努力が反映できるGHG排出量可視化PFを中心としたNTTデータのグリーンコンサルティングを確立し、多くの業界に提供している。2022年7月より、法人コンサルティング&マーケティング事業本部 サステナビリティサービス&ストラテジー推進室長に就任、現在に至る。

由岐中 一順：LRQA リミテッド サステナビリティチーム マネージャー 主任検証人

慶應義塾大学理工学部卒業、東京大学大学院農学生命科学研究科生物材料科学専攻修了。修士号(農学)取得後、LRQA リミテッドに入社。気候変動関連業務、マーケティング、セールスを経験し、現在はサステナビリティ事業の責任者として非財務情報の第三者保証の他、環境省等の委託調査や新規事業開発を統括。

▼ お問い合わせ先

サプライチェーンイベント事務局 担当池田、堀：supplychain.japan@cdp.net